

津山の森をみんなまで守る

「緑の財産」である津山の森を守るための思いを、津山市森林組合、森林所有者、林業事業者の3人にお聞きしました。

林業の作業環境の整備が急がれる

わたしは山林で木を植え、育てて守る仕事を請け負っています。近年、親から引き継いだ山林の境界が分からないという人が増えてきたと感じています。植林した木が40〜50年ほど経過したので、伐り出して出荷しようと現地を確認した際、自分が所有している山林の境界が分からず、隣接している所有者に尋ねても境界が分からなかったという事例をよく耳にします。境界を分かり易くするために境の印とする境木を植えていても、山を手入れしていないため、境木が枯れてしまつて目印が分からないという状況もあります。今後このような状況が増えてくると、将来、非常に困ると思われます。

森林を適正に整備・保全するためには、人工林の現状を把握した上で、森林所有者の意向を確認し、計画的に間伐などを進める必要があります。そして、木材の生産性を向上させるためには、植林や間伐などの森林施業の集約化に併せて、間伐や小面積の皆伐、再造林をするための森林作業道路網の整備などが必要で、戦後に植林した木が大きくなり、木材搬出量の増加が見込まれるので、今後は既存の林道を軸に、木材の搬出機能などを目的とした基幹となる森林作業網の整備を、市と協力しながら行っていきたいと思っています。



私有林所有者
川端啓二さん (高尾)

山を次の世代に引き継ぎたい

わたしは、代々引き継いできた山林を大切に育てています。木や山に愛着を持って保育や間伐などの手入れをやってきました。

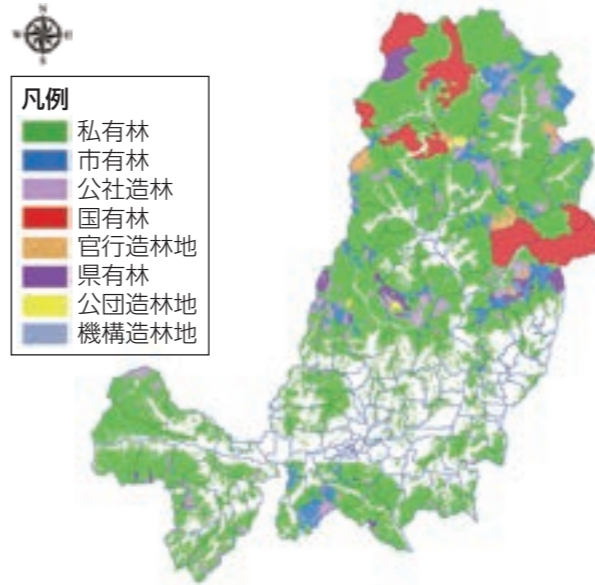
以前は、木の枝葉を燃料として炊飯や風呂沸かしをするなど、山と生活が密接に結びついていました。農閑期には来年の燃料となる薪の採取で山に入り、里山も整備されてきましたが、電気やガスの普及によって薪が不要となり、次第に山の管理が行き届かなくなってきました。

現在、自宅には薪ストーブがあります。田畑の日陰になったり、ヒノキの育成を阻害したりするような雑木を薪として伐り出して利用しています。そのストーブの炎の揺らめきを見ながら、「山の木の価値が見直される時代になってくれれば良いのにと、よく考えます。」

木を育てて出荷するまでに約50年かかります。代々大切に守り育てられた山を、次の世代に引き継ぎ、恩恵を感じながら、木を植えて伐つて使うサイクルを維持してもらいたいです。

また、木の苗を植えて森林づくりをしていくことも重要です。伐つた後に植える苗木は、針葉樹林であるヒノキを主体に行いますが、森林の多面的機能を十分発揮していくために有用なクヌギやケヤキ、ヤマザクラなどの広葉樹の植林も大切なので、針葉樹林と広葉樹林の混合林や広葉樹林を造成していくことも必要と考えています。

津山市の森林所有形態別位置図



「儲かる林業」へ

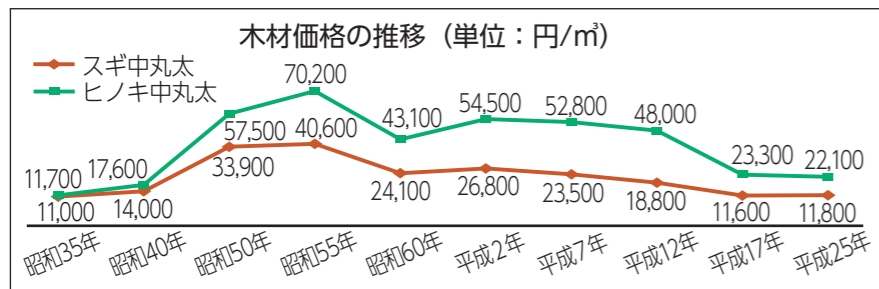
わたしは、森林を守り育てることに誇りを持って取り組んでいます。植えた木が大きくなるまで長い年月が必要で、根気のある作業もあります。近年、外国産材の輸入や住宅の建築戸数の減少などにより、木材価格の下落が著しく、山での経済活動が成り立たなくなってきました。そのため、下刈りや間伐など、山の管理に費用をかけても、それに見合う収入が期待できないので、山を放棄する人が増えています。

その中で、ドローン（無線操縦航空機）やレーザー測量など新しい機材を活用して、山の管理を放棄している個人所有者に、自分の所有している山の現状を知ってもらい、間伐などの施業の集約化を働き掛けていきたいと思っています。

また、施業を集約することで、高性能な林業機械を効率良く活用できるので、低コスト化が図れるようになります。多くの人が山を手入れでき、山の所有者に少しでも多くの利益がもたらされる仕組みを作っていきたいですね。



株式会社杉 代表取締役
内田雅章さん (加茂町原口)



資料：農林水産省大臣官房統計部「木材価格」



高性能林業機械を使用した作業

津山市内人工林の樹種別資源の内訳

種類	面積	比率
スギ	4,912ha	25.5%
ヒノキ	12,990ha	67.5%
マツ	659ha	3.4%
他の針葉樹	61ha	0.3%
その他	629ha	3.3%

津山市内森林面積(35,416ha)の内、民有林(31,508ha)の割合

種類	面積	比率
人工林	19,251ha	61.1%
天然林	11,062ha	35.1%
その他	1,195ha	3.8%



津山市森林組合 代表理事
組合長 西本健三さん (西)